

8. 中国（地域別調査機関：（社）中国地方総合研究センター）

（-：回答が存在しない、：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・以前よりは客数が増加している。店を素通りしていた人がメニューを見たり、店内に入ってきており、段々と上向いている。
		一般小売店〔紙類〕（経営者）	お客様の様子	・販売量は落ちているが、今までと違い、観光客等来客者の買い物にゆとりが感じられる。
		スーパー（店長）	単価の動き	・高価格商材や、まとめ買いをする客が増加しており、客単価が前月や前年を上回って推移するようになってきている。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・3ヶ月前に比べると、客単価が前年に比べ2ポイント上昇している。客数も前年に比べ1ポイント上昇している。
		衣料品専門店（店長）	単価の動き	・売上件数は減少しているが、いいものを吟味して購入する人がより一層増加し、高価な取り扱い商材もあるため、客単価は上昇している。
		乗用車販売店（統括）	販売量の動き	・減税、補助金の効果で、前年比130%と大きく上回っているが、前々年と比較すると90%とまだ厳しい状況である。
		乗用車販売店（統括）	お客様の様子	・売上、利益とも前年以上であり、話も多い。また、こちらからのアプローチがなくてもいい方向に向いている。客からの積極的な動きが感じられる。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・売上が16ヶ月ぶりに前年超えをしたことから、徐々に回復傾向にある。特に昼食時に来客が増加しており、若干良くなっている兆しがある。
		その他飲食〔ハンバーガー〕（経営者）	来客数の動き	・前月同様に新商品を購入する客が多く、客数、客単価に良い影響を与えており、売上が前年比10%以上伸びている店舗が多い。
		観光型ホテル（経理総務担当）	販売量の動き	・売上は3ヶ月連続で前年を上回った。特に宴会部門の売上の回復が目立ってきている。飲料部門も、フェアの実施により堅調に推移している。
	住宅販売会社（従業員）	お客様の様子	・来店客が若干明るい雰囲気になり、多少動きが感じとれるようになってきた。	
	変わらない	商店街（代表者）	お客様の様子	・来客数や客の様子で多少上向いている。
		商店街（代表者）	来客数の動き	・以前だとこの時期、客はセール、バーゲン等で安価なものを購入していたが、今は欲しいものだけを購入している傾向が顕著であり、来客数は減少している。
		一般小売店〔茶〕（経営者）	販売量の動き	・今月は、市をあげての食のイベントと、毎月恒例の行事があり、天候に恵まれたこともあって、多くの参加者があった。このように、イベントと天候がうまくかみ合うと、通常財布のひもが固い消費者も、若干は緩む。しかし、日ごろは、街中は死んだように静かである。
		一般小売店〔印章〕（営業担当）	来客数の動き	・前年比の売上は、6～7月に一時持ち直したが、8月以降7ヶ月連続して前年割れが続いている。
		一般小売店〔酒〕（営業）	販売量の動き	・売上や来客数の様子から、下げ止まった感じはあるが、上昇に転じるまでには至っていない。
		百貨店（営業担当）	お客様の様子	・今年は気温が高めに推移したことで、春物の動きが良かったが、冬物の動きが悪かった。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・店舗全体の2010年2月売上高前年比見込みは90-95%となっており、3か月前と変化がない。
百貨店（販売促進担当）		お客様の様子	・ギフト半額、タオル詰め放題など、価格対応の企画への客の反応は良好である。反面、100万を超える美術・宝飾の商談も増えてきており、両極端な動きがみられる。しかしながら、一般中級商材の動きは、まだまだ低迷が続いており、分母の大きなゾーンでもあり、ここでの改善が図れない限り、景気好転の兆しとはいえない。	
百貨店（販売促進担当）		販売量の動き	・テナントの売上状況を見ると、2～3ヶ月前のように全てのテナントが悪いというわけではなくなっている。前年同月比で100%を超えるところも徐々に出てきている。しかし、各テナントの店長等は、回復の手ごたえはまだだと感じている。	

百貨店（売場担当）	お客様の様子	・商品群別に好不調の波があり、一概に良い・悪いの判断が難しい状況にある。前年比では状況は悪いが、婦人の身の回り品や化粧品など好調に推移している商品群も出てきており、前年からの下げ幅は減少しつつある。
百貨店（販売担当）	お客様の様子	・売り尽くしセールや動員催事により、来客数は前年を上回る日が多いが、売上は前年を下回っている。「必要以上の買い物はしない」という客の購買動向は、昨年から変わっていない。
スーパー（店長）	単価の動き	・客単価が前年比94%（金額で1人当たり100円の低下）の状況である。件数も前年比80%で前月同様に推移している。
スーパー（店長）	単価の動き	・1点単価は上昇しない。前年並み、もしくはそれ以下の状況は変わらない。目玉商品でも余分な物は購入しない傾向にある。
スーパー（販売担当）	お客様の様子	・低価格商材を購入する客が多い。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・前年に比べ、低価格商材のスペースが拡大している。特に昼の弁当は顕著である。
コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・客数の前年比は横ばい、客単価も依然前年比割れが継続中である。
衣料品専門店（地域ブロック長）	単価の動き	・春物衣料の動向について、前年に比べ数量は増加しているが、低価格商材のみの売行きとなっている。
家電量販店（店長）	単価の動き	・単価の低下に加え、販売量も減少している。また、先行きに対する不安感から、客は必要なものだけ購入する傾向が継続している。
乗用車販売店（経営者）	来客数の動き	・毎週のように催し物を実施し、集客に努めているが、前年並みの集客が続いている。客の低価格志向が強く、売上げの減少が継続している。
乗用車販売店（サービス担当）	販売量の動き	・中古車店舗で、昨年は44台の売上だったが、2月現在38台と前年を大きく割り込んでいる。展示場への来客が少なく、特に新卒者の需要が非常に少ない。
自動車備品販売店（経営者）	来客数の動き	・前月は来客数で前年実績を上回ったが、今月は下回っている。季節的な要因はさほど影響しておらず、実質的なものと言える。好不調の波が大きく、判断しづらい動きとなっている。
その他専門店【和菓子】（営業担当）	単価の動き	・来客数に大きな変動はないが単価が上昇しない。
その他飲食【サービスエリア内レストラン】（支配人）	販売量の動き	・高速道路料金引下げで上向きであったが、3ヶ月前との比較では変わらない。前年との比較では上向きである。
観光型ホテル（スタッフ）	お客様の様子	・客の財布が非常に固い。景気が悪いのか、お金をなかなか使わない。
都市型ホテル（スタッフ）	単価の動き	・宿泊人数は増加しているものの、客単価が700円低下している。また、インターネットからの当日予約も増加しており、少しでも安価なサービスが希望されている。
都市型ホテル（総務担当）	販売量の動き	・稼働率の低迷が続き、ホテルの働きかけ以外にも、割安料金へ移動している傾向が続いているように感じる。冬場でも需要はあるが、割安料金を提示しても、より低価格で利用をしている。
タクシー運転手	お客様の様子	・天候（雪）の影響で、前半は利用があったが、後半は減少した。市のイベントで、職員フェスティバル等があったが、マイカーでの来場が多く、利用は限られていた。観光はレンタカーが中心で、利用は限られていた。夜の繁華街では、客足が途絶えており、店の経営も厳しい状況が続いている。
通信会社（営業担当）	お客様の様子	・ネットワークの更新は必要最小限で、通信費の増加には慎重で抵抗感が強い。
テーマパーク（管理担当）	来客数の動き	・入館者の動向状況により変わらない。
テーマパーク（広報担当）	来客数の動き	・2月前半の積雪等の悪天候で、来客数が大幅に伸び悩んだが、後半は天候が良くなり来客数も回復してきている。
設計事務所（経営者）	お客様の様子	・客は商材の購入意欲がない。

	設計事務所（経営者）	来客数の動き	・景気の見通しがまだはっきりしないなか、建築業界は民間の動きも悪く、なかなか受注に至らない。
	設計事務所（経営者）	お客様の様子	・住宅版エコポイント制度の発表があったが、家電などと違いメリットがあまり感じられない。客の反応も今ひとつである。
やや悪くなっている	商店街（代表者）	単価の動き	・クレジットカードの組合では、1月は前半非常に悪く、後半盛り返している。2月は悪い。当社の状況も1月は悪く、2月にやや盛り返したという状況である。
	一般小売店〔酒店〕（経営者）	お客様の様子	・2月は暇な月と意識されているが、実際に低調な状況になっていて、あきらめムードもある。飲食店の酒類注文量もかなり減少している。景気回復の実感にほど遠く、節約志向が強い。寒さも影響し、人の動きが悪かった。
	百貨店（購買担当）	お客様の様子	・衣料品関係全般（紳士服・婦人服・子供服）は、数ヶ月連続して前年割れという厳しい状況が続いている。物産展（全国うまいもの展・京都展）を開催し、集客の増加による売上アップを図っているが、今月の物産展は前年割れということで、品揃え等の客のニーズの把握に苦慮している。
	百貨店（売場担当）	販売量の動き	・ブランドのセールは売上があったが、外販の売上が全くない。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・客単価が1割程度低下したままで推移している。
	コンビニ（エリア担当）	販売量の動き	・第1週は順調で、第2、3、4週は1ポイントずつ低下している。前年に比べ、売上は厳しい状況にあり、プライベートブランド等安価なものが目について売れているが、定番の商材が振るわない。数量は出ているが、前年に比べ価格が低下した商材が多く、売上の増加に寄与していない。
	衣料品専門店（地域ブロック長）	単価の動き	・引続き単価の低下傾向が継続している。
	その他専門店〔時計〕（経営者）	来客数の動き	・景気悪化で生活防衛の為、とにかく必要なもの以外は購入しないという消費者心理が働いている。
	その他専門店〔布地〕（経営者）	お客様の様子	・高齢の客が多く、年金や医療保険の将来に不安な様子で、消費活動に消極的である。
	その他専門店〔海産物〕（支配人）	単価の動き	・購買単価が上昇せず、まとめ買いがない。寒かったため来客数も少なかった。
	都市型ホテル（従業員）	来客数の動き	・特にレストラン部門の苦戦が続いており、個人消費の落ち込みが感じられる。
	旅行代理店（営業担当）	お客様の様子	・政府予算にしても経済対策が見えず、企業の景気も悪いことから、いまだに個人消費まで行き届かず、旅行どころではない。
	タクシー運転手	来客数の動き	・突発的な仕事を除いて、売上も減少している。
	タクシー運転手	販売量の動き	・売上について、前年の11月までは前年比10%の減少、12月から現在までは7%の減少となっている。また、他の運転手からは「長距離、観光仕事が全くなかった。」と聞いており、先行きが太いに不安である。
タクシー運転手	来客数の動き	・景気低迷と天候不順の影響で、利用が少ない。客は特に夜の利用を節約している。	
テーマパーク（業務担当）	来客数の動き	・降雪、低温などの天候の影響や不景気による出控えが起きている。	
競艇場（職員）	販売量の動き	・入場者の減少に伴い、売上が減少している。	
美容室（経営者）	来客数の動き	・不景気の下況下、お金の流れが非常に悪くなっており、客の来店周期がより一層長くなっている。	
設計事務所（経営者）	お客様の様子	・ボーナスの減額などで収入が減少している。	
住宅販売会社（経理担当）	お客様の様子	・1月に実施した販売イベントでは、顧客の動きが活発になっていると感じたが、2月に入って動きが悪くなっている。特に顧客は、予算に対して相変わらず厳しく、低価格の住宅へシフトしている。	
悪くなっている	商店街（代表者）	来客数の動き	・2月、8月は例年売上は減少しているが、今年は特に悪い。客の購買意欲が感じられず、以前にも増して「必要な分だけ」という意識が感じ取れる。

		商店街（代表者）	来客数の動き	・卒業を真近に控えた学生の来客が少ない。
		百貨店（営業担当）	販売量の動き	・販売客数の落ち込みが売上高に影響し、悪化している。
		百貨店（売場担当）	単価の動き	・2月も衣料品を中心に売上が苦戦している。販促経費も制約されており、売上確保が困難となっており、店全体で93%がやっとなである。
		スーパー（店長）	来客数の動き	・競合店や総合スーパーなどが沿線に出店したため、週末を中心に来店客数が減少している。また、買い控えも顕著に出ている。
		スーパー（財務担当）	単価の動き	・消費者の低価格志向がますます激しくなっており、競合他社の価格に合わせるため、1品単価の下落が続いている。
		コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・今月は客数が伸びていない（前年比85～86%）。客単価も前年比20円～30円低下しており、天候が悪かったこともあるが、特に客の財布のひもの固さを実感している。
		コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・来客数の大きな減少はないが、買上個数、1品単価が低下し続けており、売上は前年割れが続いている。
		衣料品専門店（経営者）	来客数の動き	・前々月からの店頭アーケード工事により厳しい状態が続いている。
		衣料品専門店（販売促進担当）	お客様の様子	・今月は来客数が減少していないが、正規価格の商品の動きが悪く特価商材を見る客も多く、客単価が大幅に低下しているため売上は減少している。また、中旬まで寒く、春物の動きはまだない。
		住関連専門店（広告企画担当）	単価の動き	・単価が上昇する傾向が全くない。
		一般レストラン（店長）	来客数の動き	・昼食時の、来客の減少幅は少なかったが、夜と同様に悪化している。売上は2割減少している。
		タクシー運転手	お客様の様子	・景気が良くなる要因は何もなく、来客数の減少が続いている。
		美容室（経営者）	競争相手の様子	・商店街からの話では、物が売れないし、閉店するところもある。同業者からも暇であると聞いている。
		美容室（経営者）	お客様の様子	・客の節約志向が高まっており、消費活動が消極的になってきている。また、来店頻度も減少し、周期がさらに長くなっており悪い状況である。
企業動向関連	良くなっている	-	-	-
	やや良くなっている	鉄鋼業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・自動車部品の受注が一部回復、エレクトロニクス関係の受注も堅調で、前年比では徐々に受注が戻りつつある。
		電気機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・家電、特にエアコン関連の受注の高止まりが続いている。約6ヶ月分の受注があるが、人員と部材不足のため、1.5ヶ月の納期遅延となっている。自動車関連も受注が上向きとなっており、人員のやりくりにも苦慮している。
		通信業（営業企画担当）	取引先の様子	・全般的に新規サービス導入を保留していた客が、導入検討に向け動き始める傾向が出始めている。
		不動産業（総務担当）	それ以外	・来客数や成約件数が増加している。
		会計事務所（職員）	取引先の様子	・2月に入って一部の製造業で、受注単価は相変わらず厳しいものの、ある程度の受注量が入ってきている。また、補正予算執行の影響からか公共事業関連も、わずかではあるが動きだしている。
変わらない		木材木製品製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注が上向かない。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・国内需要回復の見通しが立たない。セメント需要減少や大手自動車メーカーのリコール問題など、明るい話題が無い。
		化学工業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・今年になっても特に大きな変化はない。自動車関連品の受注は回復途中ながら順調に推移している。
		窯業・土石製品製造業（総経理担当）	受注量や販売量の動き	・鉄鋼業（高炉）からの受注は回復基調だが、電気炉メーカー、自治体向けの塵焼却炉の受注が少なく、生産は低水準の状況が続いている。

	金属製品製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・1月に得意先が受注した中国の大型案件は、工場建設工事が遅れることとなり、2～3ヶ月延期となった。その動向により、人の異動等の生産体制にも影響を及ぼすが、詳細な状況は不明なため、待つしかない状況であり、今月は良いとも悪いとも言えない。
	一般機械器具製造業（経営企画担当）	受注量や販売量の動き	・自社製品の売上について、国内、海外共に依然として市場の冷え込みは続いており、厳しい状況である。
	輸送用機械器具製造業（経理担当）	受注量や販売量の動き	・受注量については、若干の上方修正となっている。
	輸送業（統括）	取引先の様子	・2月は営業日数も少なく例年荷動きが少ないため、あまり変化を感じない。
	金融業（業界情報担当）	取引先の様子	・主要取引先では、欧米向け販売は依然として伸び悩んでいるが、中国向け販売が好調を維持し、国内販売も回復してきた。また、生産は2直定時操業を継続している。
やや悪くなっている	食料品製造業（業務担当）	受注量や販売量の動き	・売上が前年比で減少している。
	輸送用機械器具製造業（総務担当）	受注量や販売量の動き	・親企業からの受注量は少ししか増えていない。
	建設業（経営者）	受注量や販売量の動き	・取引関係では徐々に厳しさが増している。不動産関係で、商店はシャッターが目立ち、ビルも空室が増加している。地域の活力がますます低下している。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・将来の事業成長に向け、設備投資もわずかではあるが見られるようになってきたものの、価格引下げに加え販売数量の低迷による売上の減少が続いている。人件費を中心とした経費削減により、ここ数年間、やっとの状況で事業存続してきた企業が、不況のあおりを受け、倒産に至っているケースが見受けられる。
悪くなっている	農林水産業（従業者）	それ以外	・今月（1月）と3か月前（10月）を比較すると、イカつり船、地元巻き網船、大中型巻き網船が減少したため、水揚げ数量で24t、水揚げ金額は2億7500万円の減少である。
	その他製造業〔スポーツ用品〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	・販売減により生産の受注が減少する見通しである。
雇用関連	良くなっている	-	-
	やや良くなっている	求人情報誌製作会社（支店長）	求人数の動き
変わらない	人材派遣会社（営業担当）	求人数の動き	・派遣依頼数は、業種によっては一時的な季節需要による大口求人があったものの、それ以外は依然として低調で横ばい状況にある。
	人材派遣会社（支店長）	求人数の動き	・前年比横ばいのため。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人は28ヶ月ぶりに前年同月比でわずかだが増加に転じた。製造業、特に電子部品製造等の回復が目立っている。しかし、中長期的には見通しが立たないことから、臨時・パート求人の比率が高くなっている。
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・前年同期の新規求人数は世界的な不況の影響で減少していたが、今期はその減少した前年同期よりさらに減少している。（21年1月は前年比20.1%減少、22年1月は前年比10.1%減少）欠員補充はしても増員求人まではできない、現状の従業員の雇用を維持することが優先する、ということが伺える。
	職業安定所（職員）	周辺企業の様子	・有効求人倍率は若干上昇したものの、依然として厳しい状況のなか、求職者が減少したこともあって、求人者の採用意欲は高い。当面、パート求人を中心に穏やかな求人の増加が続く。
	職業安定所（雇用開発担当）	周辺企業の様子	・先行きについて前向きな話はほとんど聞かない。現在の受注状況であれば、従業員は過剰気味であると回答する企業が多く、求人についての姿勢は超保守的である。

	民間職業紹介機関（職員）	求人数の動き	・求人登録は若干ではあるものの増加してきているが、完全に持ち直しているとは言い難く、採用自体に慎重であることに違いはない。
	民間職業紹介機関（職員）	採用者数の動き	・4月を前に、学生・学校からの就業先の問合せがくるようになった。
やや悪くなっている	求人情報誌製作会社（担当者）	採用者数の動き	・合同の企業説明会に参画する企業数が前年より減少傾向にある。
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	採用者数の動き	高校卒業者のうち、4分の1は採用内定が決まっていない。
悪くなっている	-	-	-